

年間第24主日9月15日円山教会集会祭儀分かち合い

### マルコによる福音書8章27-35節

その時、イエスは、弟子たちとフィリポ・カイサリア地方の方々の村にお出かけになった。その途中、弟子たちに、「人々は、わたしのことを何者だと言っているか」と言われた。弟子たちは言った。「『洗礼者ヨハネだ』と言っています。ほかに、『エリヤだ』と言う人も、『預言者の一人だ』と言う人もいます。」そこでイエスがお尋ねになった。「それでは、あなたがたはわたしを何者だと言うのか。」ペトロが答えた。「あなたは、メシアです。」するとイエスは、御自分のことをだれにも話さないようにと弟子たちを戒められた。それからイエスは、人の子は必ず多くの苦しみを受け、長老、祭司長、律法学者たちから排斥されて殺され、三日の後に復活することになっている、と弟子たちに教え始められた。しかも、そのことをはっきりとお話しになった。すると、ペトロはイエスをわきへお連れして、いさめ始めた。イエスは振り返って、弟子たちを見ながら、ペトロを叱って言われた。「サタン、引き下がれ。あなたは神のことを思わず、人間のことを思っている。」

それから、群衆を弟子たちと共に呼び寄せて言われた。「わたしの後に従いたい者は、自分を捨て、自分の十字架を背負って、わたしに従いなさい。自分の命を救いたいと思う者は、それを失うが、わたしのため、また福音のために命を失う者は、それを救うのである。」

おはようございます。3分間の福音の分かち合いをさせて頂く札幌聖心女子学院チャプレン聖心会の田口です。

ペトロという人はイエスの一番弟子でありながら、何とも人間的で、私たちがしがちな失敗を重ねていて、親しみを感ずります。

今日の福音では、イエスのために想ったのことでありますが、イエスをいさめて、叱られます。ペトロは、自分の生活の中心だった湖のほとりでイエスに出逢いました。

若々しいイエスとペトロの出逢いを想像すると、何かきらきらとまぶしいようなイメージがあります。それは太陽に反射する湖の水が輝く日だったかもしれません。その時、ペトロの人生に大きな光が差し込みました。そして、イエスに惹かれ、共に旅をし、深く知って「この方こそ、神から遣わされた救い主、メシアだ」という確信が生まれます。

でもペトロの考えは当時の人々と同じで、救い主はこの世で異民族を倒し、自分たちイスラエル民族に華々しい栄光をもたらす存在だと思っていました。つまり自分たちの生活から苦しみを取り除いて、「勝ち組」にしてくれるのが救い主だと思っていたのです。

しかし、イエスの伝える神の愛は、人間の苦しみを取り除くのではなく、自ら苦しみを受け入れ、体験して、その苦しみを共にする愛でした。

人は苦しみの中にあっても、誰かがその体験を共にして、理解してくるえと知る時、自分は一人ぼっちでないと知る時、どんな苦勞もいとわない力が生まれることを知ります。

そのために、イエスの歩む道には、人間の味わう苦しみの体験がまっぴらでした。「私は決してあなたから離れず、あなたを置き去りにしない」(ヘブライ書13章5節)との言葉通り、神が人の苦しみを共に味わうことで、人は救われます。しかしペトロには、イエスに見えている道は見えません。イエスのことを心配しているからこそ、自分の思い通りにイエスを動かそうとします。

私たちも、大切に思う人たちが求めていることを理解せず、自分の考えで相手を動かそうとすることがあるかもしれません。思い返せば私にもありました。

ペトロのエピソードはそんな私たちに、愛するという事は、相手を自分の想いのままに動かすのではなく、相手を理解することだと教えてくれます。

そして、イエスが伝えた神の愛とは、「苦しみを共にすることで人を救う愛」だということも教えてくれます。

そのイエスと共にあるためには、私たちもイエスの道を歩むように呼び掛けられています。「イエスの歩んだ道？この私が？」とちょっとひるんでしまいますが、共にあることで苦しみを乗り越える力が生まれ、本当の意味で生きることができます。

いつも共にいてくださるイエスと共に、今週も過ごしましょう。ありがとうございます。

Bài Tin Mừng hôm nay dạy chúng ta rằng tình yêu của Thiên Chúa mà Chúa Giêsu rao giảng là "tình yêu cứu độ con người bằng cách chia sẻ đau khổ của họ". Chúng ta hãy dành tuần này với Chúa Giêsu, Đấng luôn ở với chúng ta. Cảm ơn bạn.